

授業科目等の概要

(文化教養専門課程動物管理学科トリマーコース) 令和2年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			動物形態機能学 (概論・形態機能)	動物が生存していくうえで不可欠なエネルギーの素、身体を作る素である栄養素の消化と呼吸を理解するために、消化器の構造と機能を学ぶ。また、内臓機能の調節では、自律神経と内分泌の基本構造と機能を学ぶ。	1前	30		○			○			○	
2	○			動物病理学	病変の特徴や分類、名称、病理学的検査方法などの病理学専門用語を用い学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解する。これらのことを理解するために、病気の成り立ちから腫瘍などの項目について学ぶ。	2前	30		○			○				○
3	○			動物形態機能学 (比較解剖学)	動物の生命維持の仕組みと、解剖学および生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習する。	1後	30		○			○				○
4	○			動物形態機能学 (免疫学)	動物が自然界で生存していくために、自らを防護する構造や機能が備わっている。免疫系の基本的な仕組みを理解し、外部環境からの防御として生体防御機構について、また外皮の構造と機能、免疫のしくみ、体温調整に関する基礎知識を得る。	2後	30		○			○				○
5	○			動物臨床看護学各論 循環器、呼吸器、皮膚、眼科、歯科	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。好発種や、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。	1通	30		○			○				○
6	○			動物薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り揃えることを目指す。薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用、中毒を理解し獣医療現場で使用される薬剤の特性を理解する。	2通	60		○			○				○
7	○			動物感染症学 (総論・微生物学)	主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物について学ぶ。	1前	30		○			○				○
8	○			動物形態機能学 (血液学)	血液の循環とその調整および呼吸に関わる形態と機能について学ぶ。栄養素と酸素を体の隅々にまで運搬するのが血液である。循環系には血管系とリンパ系があり、リンパ系は免疫という自己防衛機能に重要な機能を持つことを学ぶ。	2前	30		○			○				○
9	○			動物感染症学 (寄生虫学)	動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌ、ネコに寄生する内部、外部の寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法を学び、飼い主に寄生虫感染の予防の大切さを伝えられるようにする。	1通	30		○			○				○
10	○			動物感染症学 (病原体・衛生管理学)	「動物感染症学」で学んだ、個々の動物の生命と健康の維持に障害を及ぼす病原体の知識をもとに、これらの病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。	1前	30		○			○				○
11	○			動物繁殖学	本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動および発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的変化と異常分娩時における助産について学習する。	1前	30		○			○				○

12	○			動物医療関連法規	獣医師とのチーム獣医療を構成する動物看護師は、動物看護師が行う獣医療関連の業務とそれを取り巻く法律の仕組みを基礎から理解し、獣医療現場および公衆衛生、環境関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として遵守の精神を養う必要がある。	2 後	30		○			○			○	
13	○			公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。動物の看護に関係する衛生学は、個々の動物の生命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生がある。公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。	2 通	60		○			○			○	
14	○			人間動物関係学	ヒューマンアニマルボンド(HAB)の考え方、基本理念をベースに、動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、概観する。IAHAIOの概念から、動物介在活動(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)とは何かを理解し、どのような活動なされているか知る。	2 前	30		○			○			○	
15	○			動物行動学ⅠⅡ	動物行動学基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリングおよび基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導に活かす。ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、獣医療に関わる者は、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を知る。	1 後 2 前	60		○			○			○	○
16	○			訓練学Ⅰ	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるので、獣医療従事者は、動物プロフェッショナルとして行動を的確に理解、判断しなければならない。「動物行動学Ⅰ」で学んだ知識を活用し、イヌやネコの基本的なしつけやトレーニングができるようにする。	1 通	30		○		○	○			○	○
17	○			伴侶動物学 (犬学・猫学)	犬種、猫種によるちがいとその飼育目的を理解し、それぞれの特徴とその目的を学ぶ。家畜化された以降の歴史、文学、芸術上に現れた人間との関係、各種の特徴、行動、役用犬の役割、猫の特性、飼育、しつけ健康管理を理解する。	1 前	30		○			○			○	○
18	○			動物福祉・倫理	動物看護の実践に必要なとされる動物福祉の認識から動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規やヒトの関わりから動物福祉への精神を養う。特に、日本と欧米の歴史から動物観の違いを知り、ヒトと動物の関わり方への変遷を学ぶ。	1 前	30		○			○		○		
19	○			伴侶動物学 (エキゾチック学)	主にコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、小鳥のほか、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、イヌとネコの違いを比較し、その種本来の習性に則した飼育、看護方法に反映することを目的とする。	2 後	30		○			○			○	
20	○			野生動物学	生態系における野生動物の位置づけと、野生動物の現状について理解する。野生動物の関連法規を学び、そこで求められている野生動物の取扱いについて理解する。特定外来生物に指定されている動物種を知り、外来生物がもたらす生協について理解する。	1 後	30		○			○			○	
21	○			産業動物学	産業動物と家畜の定義の違い、並びにこれらの特徴を理解する。産業動物と課程動物の飼養頭数の規模の違いを理解する。産業動物を飼養するために必要な法律について法的規制を理解する。	2 前後	45		○			○			○	
22	○			動物看護学概論ⅠⅡ	「動物看護学」では、概論として動物看護とは何か、対象は何か、職域は何かを学んだ上で動物看護過程について学習する。まずは動物看護技術を身に付ける以前に必要な要素について概論を学び、動物看護師を目指す目的に向かってステップアップをする。	1 後 2 前	60		○			○			○	○
23	○			動物内科看護学実習	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。症状別・臓器看護に加え、生理学を振り返りながら疾病動物にどのような障害が起きているのかアセスメントにつなげる	1 通	90				○	○			○	○
24	○			動物臨床看護学総論	動物を看護するにあたり、動物看護過程の流れについて、看護動物とその飼い主に十分にアセスメントを行い、看護上の問題点を明確化する。看護記録に動物看護師の責任で記し看護上の問題点が解決するまで、看護計画に基づき看護実践、評価が繰り返し必要である。	2 前	30		○			○			○	

25	○		動物臨床看護学各論 (幼齢・老齢動物管理)	新生子から成イヌや成ネコになるまで、動物は身体的にも精神的にも様々な変化を経て成長するが、新生子期に必要な特有の看護技術や、成長段階の各時に最適な看護を学び、また、社会化期が一生の性格形成についてなぜ重要なかを理解する。	1 通	30		○			○			○	
26	○		動物臨床検査学	検体検査においては、尿・糞便・血液・眼・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値を理解する。また、生体検査においては、基礎的身体一般検査・X線検査等からCT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値を学習する。	1 通	60		○			○			○	○
27	○		動物臨床栄養学	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を学び、栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。動物看護師は、獣医師の診断内容と栄養学的内容を理解する。	1 前 2 後	60		○			○			○	
28	○		動物外科看護学ⅠⅡ	心肺停止状態をはじめとする緊急状態時に、チーム獣医療のスタッフとして救急救命処置の適切な補助を行う救命への関与は大きく、緊急処置を必要とする看護動物の来院時に慌てないよう、日頃の診療体制内においても機材の確保と救命措置の訓練を実施する。	2 前	60		○		○	○			○	○
29	○		ペット アロママッサージ	運動不足や、ストレスを蓄積し動きの悪くなった動物をリラクセスさせるマッサージ法について学ぶ。また、目的に応じたアロマの使用法についても学ぶ。この中には精油を用いるアロマセラピーも含む。	1 後 2 前	30		○			○			○	○
30	○		訓練学Ⅰ、Ⅱ	実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う	1 通 2 前	90		○			○	○		○	○
31	○		動物飼育実習Ⅰ、Ⅱ	実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、動物の心身の健康の保持に努める。また、繰り返し実践することで動物の観察力を養うとともに、他の人と協力して飼育作業を行う協働性を身につける。	1 通	##				○	○			○	○
32	○		動物形態機能学実習 ⅠⅡ	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。症状別・臓器看護に加え、生理学を振り返りながら疾病動物にどのような障害が起きているのかアセスメントにつなげる。	1 後 2 後	45				○	○	○		○	○
33	○		動物臨床検査学実習 Ⅰ、Ⅱ	臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。	1 後 2 通	90				○	○	○		○	○
34	○		動物外科看護学実習 Ⅰ	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価および状態把握の目的・意義を理解する。	1 2 通	60				○	○	○		○	○
35	○		看護職支援	統一認定看護職師の試験対策として過去に出題された問題、あるいは学院作成の問題を解く過程で重要事項について認識し整理する。	2 後	15		○			○		○		
36	○		海外研修	海外の動物先進国の動物事情や動物関連施設を直接見て、現地の風俗習慣の違いを実感することも大切なことである。充実したものとするためには訪問先などの下調べを行い、海外研修をとおして日本と海外の動物業界の違いを学ぶ。	1 後	64			○				○		
37	○		プレインターンシップ	1年次夏期休暇期間中に、竜之介動物病院で最初のインターンシップ(プレインターンシップ)を行う。合格しなければ次のインターンシップに進めない。プレインターンシップでは飼育実習で学んだことを十分発揮することが肝要である。	1 前	32			○			○		○	○
38	○		インターンシップ	インターンシップは、卒業後に就職する職場を体験、理解するために理想的なシステムである。インターンシップは将来の自分の就職先に直結した非常に大切な体験の機会でもある。在学2年間で5回以上のインターンシップをしなければ卒業できない。	1 2 通	##			○			○		○	○

[illegible]

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①所定の科目を履修し、所定の単位を修得すること。動物看護学科93単位 ②履修期間の出席日数は3分の2以上であること。③単位認定は卒業判定会議にて決定する。④取得資格は評価の要素とする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	17週

(留意事項)